

「東北大学の教育に関する卒業・修了者調査」 結果の概要

東北大学キャリア支援センター

はじめに

東北大学では教育プログラムの改善に向けた取り組みを継続的に行ってきた。そのプロセス、すなわち本学の教育をより効果的なものへ高めていく上で、本学の教育を実際に経験した在校生や卒業生などの意見を把握し、教育プログラムに反映させる努力を続けていくことは大きな意義を有している。なかでも卒業・修了者を対象とした調査は、卒業・修了後の職業生活や社会生活の経験を通じた本学の教育に対する評価を得ることができるという点で、きわめて貴重な機会とすることができる。

本調査は、総長裁量経費の交付を受け、本学の学部卒業生・大学院修了者を対象として実施された。卒業・修了者を対象とした調査が全学的規模で実施されるのは、平成 19 年に続き 2 回目である。本報告書に目を通していただければ、いずれの学部・研究科の卒業・修了者であっても、東北大学に対する強い期待を持っていることが読み取れるはずである。こうした期待に応え、さらに本学の教育を充実させていくためにも、本調査の結果を関連する組織で広く有効に活用していただければ幸いである。

なお、本調査の実施に際しては、東北大学校友会、および広報課校友係に大変なお力添えをいただいた。また、各学部・研究科の同窓会には本調査へのご理解とご協力をいただいた。記して感謝申し上げたい。

最後に、本調査にご協力いただき、貴重なご意見をお寄せいただいた多くの卒業生・修了生の方々に感謝申し上げます。

東北大学 キャリア支援センター長
木島 明 博

謝 辞

本調査の実施に当たり、下記の本学同窓会からご理解とご協力をいただきました。厚く御礼申し上げます。

校友会(全学同窓会)	地理学教室同窓会
文学部同窓会	東北生物学同窓会
教育学部同窓会	歯学部同窓会
法学部同窓会	薬学同窓会
経和会(経済学部同窓会)	青葉工業会(工学部同窓会)
理学部数学教室同窓会	農学部同窓会
泉菝会(理学部物理系同窓会)	情報科学研究科同窓会
東北化学同窓会	生命科学研究科同窓会
地質学古生物学教室同窓会	環境科学研究科同窓会 紫水会
(理学部地球科学系同窓会)	

調査の概要

・実施主体

東北大学高等教育開発推進センター／キャリア支援センター

・実施時期

2014年2月から3月

・調査の対象者

東北大学の各学部・研究科を、2003年度、2007年度、2009年度、2011年度に卒業・修了した者として計画した。このうち、調査依頼状を送付・送信できる情報を得られた8,175名が調査対象者。

・調査の方法

高等教育開発推進センターおよびキャリア支援センターから各対象者宛に依頼状を郵送および電子メールで送信し、Webページにて回答を受け付けた。

・有効回収率

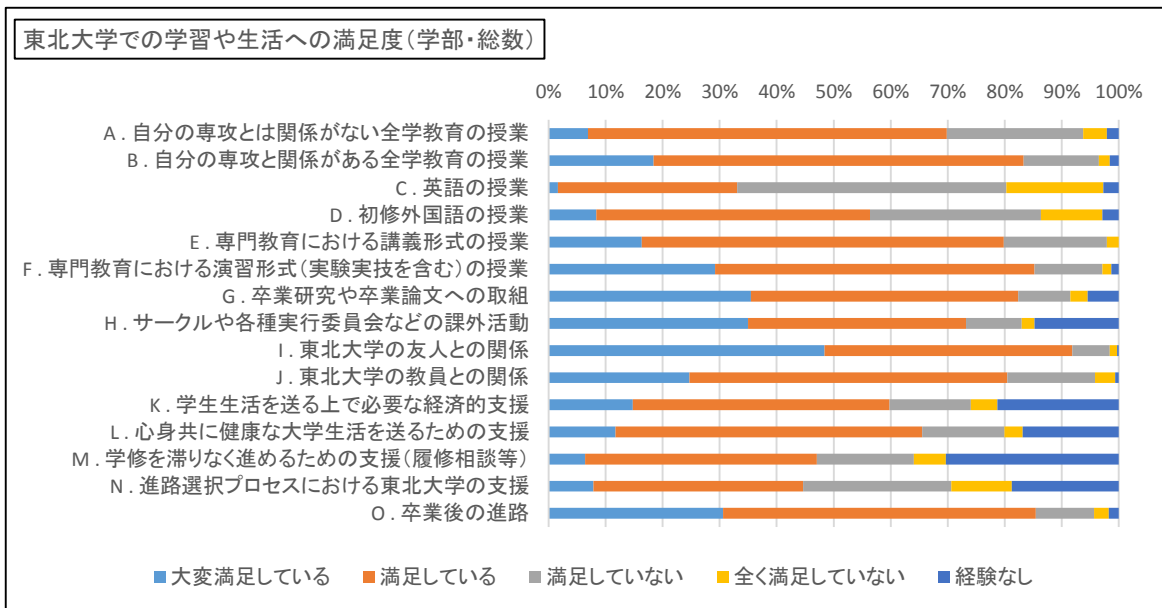
有効回収票数は758票で、有効回収率は9.3%であった。

調査結果の概要

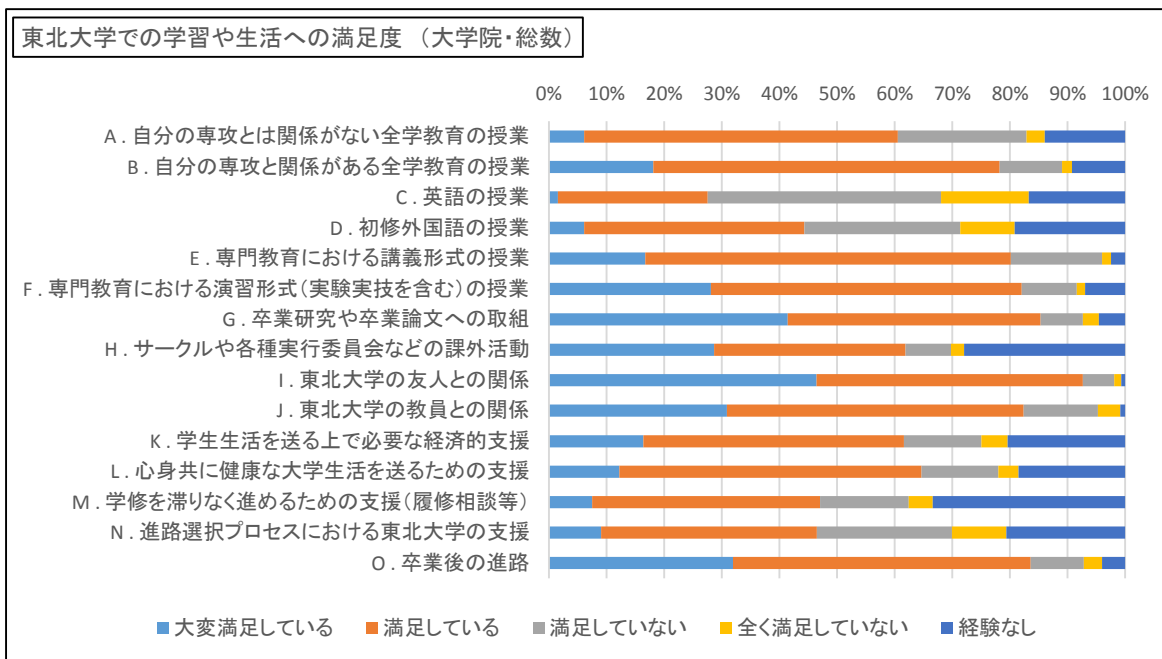
◆回答者の属性

- ・東北大学の学士課程(以下、学部)に在籍した経験を持つ者は634名であった。内訳は、工学部334名、理学部71名、文学部66名、法学部39名、農学部35名、薬学部27名、教育学部23名、経済学部23名、歯学部12名など。
- ・博士前期課程・修士課程(以下、修士課程)に在籍した経験を持つ者は535名。内訳は、工学研究科256名、文学研究科54名、理学研究科51名、情報科学研究科48名、農学研究科27名、薬学研究科24名、環境科学研究科23名、生命科学研究科21名、教育学研究科14名など。
- ・博士後期課程・博士課程(以下、博士課程)に在籍した経験を持つ者は181名。工学研究科71名、理学研究科23名、情報科学研究科22名、文学研究科12名、生命科学研究科12名、薬学研究科10名など。
- ・専門職大学院(以下、専門職)に在籍した経験を持つ者は13名で、内訳は法科大学院7名、公共政策大学院5名、会計大学院1名であった。
- ・分析の対象としたのは747名で、学部のみ在籍経験を持つ者が162名、大学院(修士課程、博士課程、専門職のいずれかまたは複数に在籍経験を持つ者)のみ在籍経験を持つのが113名、そして472名が学部と大学院の双方に在籍経験を有する者であった。

◆東北大学での学習や生活に対する満足度

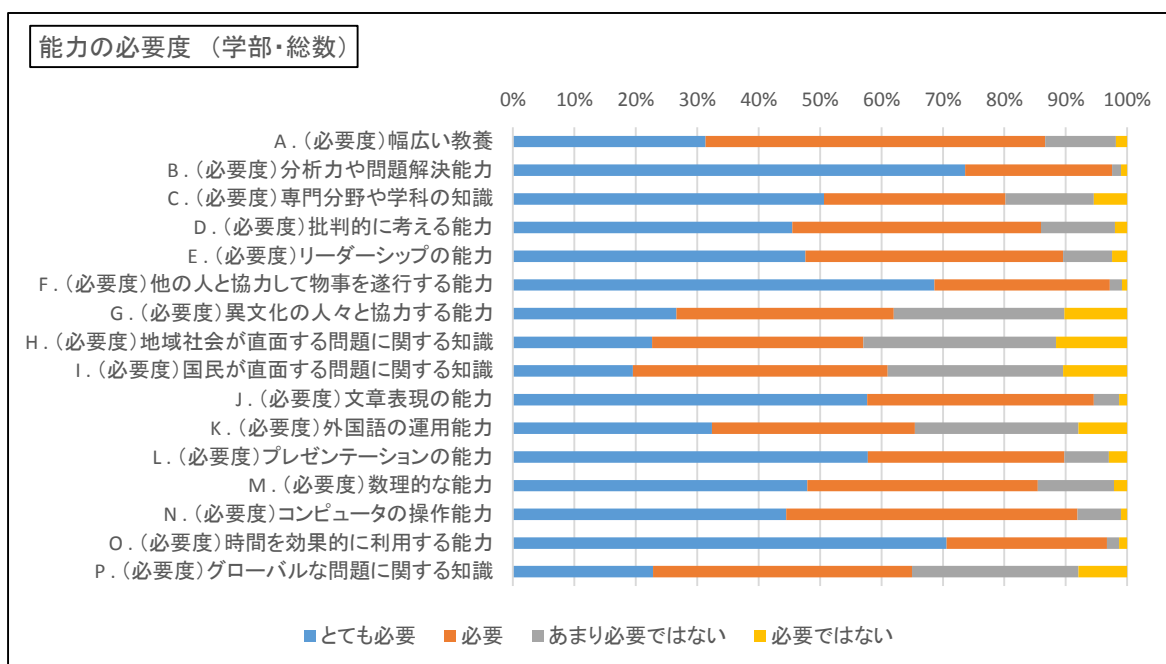


- ・学部在籍経験者において、満足度(大変満足+満足)がもっとも高いのは、「友人との関係」92%。それに「卒業後の進路」85%、「専門教育における演習実験等の授業」85%、「専攻に関連する全学教育の授業」83%、「卒業研究・論文への取り組み」82%、「教員との関係」80%、「専門教育における講義形式の授業」80%などが続いている。
- ・一方で、満足度が低い(満足していない+全く満足していない)のが、「英語の授業」64%、「初修外国語の授業」41%、「進路選択プロセスでの支援」37%、「専攻に関連しない全学教育の授業」28%などとなっている。



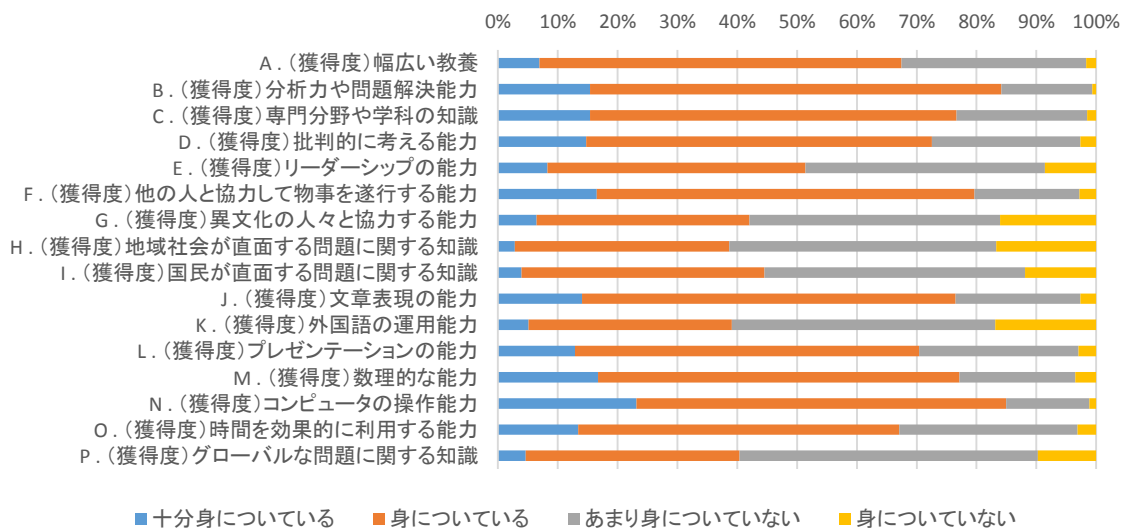
- ・大学院在籍経験者において、満足度がもっとも高いのは、「友人との関係」93%。それに「卒業研究・論文への取り組み」85%、「卒業後の進路」84%、「教員との関係」82%、「専門教育における演習実験等の授業」82%、「専門教育における講義形式の授業」80%、などが続く。
- ・一方で、満足度が低い(満足していない+全く満足していない)のが、「英語の授業」56%、「初修外国語の授業」36%、「進路選択プロセスでの支援」33%、「専攻に関連しない全学教育の授業」25%などとなっている。

◆現在の仕事や生活における能力の必要度、獲得度(学部在籍経験者)



- ・現在の仕事や生活において、各種の能力やスキルが必要とされる程度について尋ねた。学部在籍経験者では、必要(とても必要+必要)と認識されている比率が特に大きいのが、「分析力や問題解決能力」98%、「他の人と協力して物事を遂行する能力」97%、「時間を効果的に利用する能力」97%、「文章表現の能力」95%、「コンピュータの操作能力」92%、「プレゼンテーションの能力」90%、「リーダーシップの能力」90%、などである。
- ・一方で、必要ではない(あまり必要ではない+必要ではない)と回答した者の比率が相対的に高かったのは、「地域社会が直面する問題に関する知識」43%、「国民が直面する問題に関する知識」39%、「異文化の人々と協力する能力」38%、「グローバルな問題に関する知識」35%、「外国語の運用能力」35%、などであった。

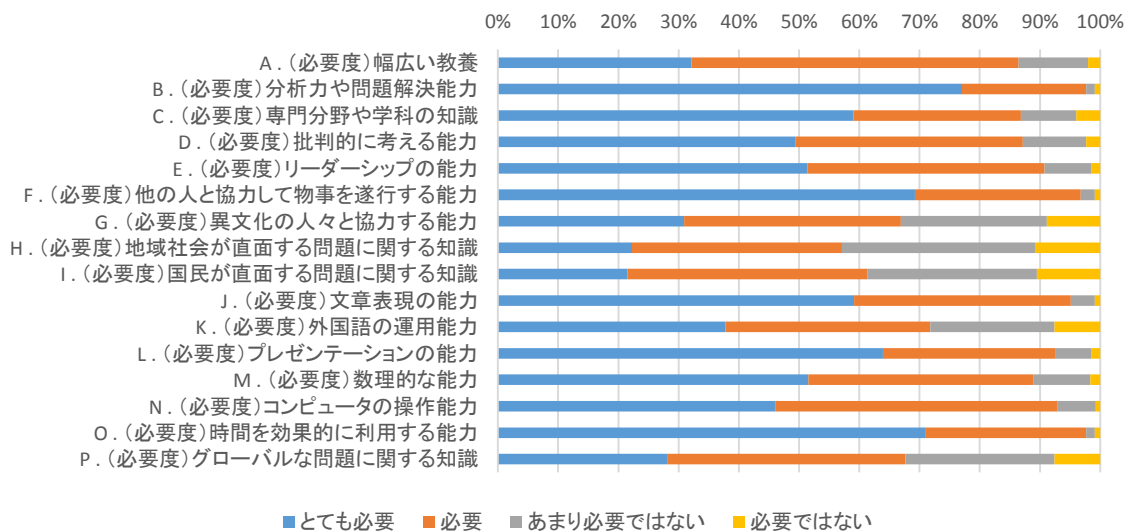
能力の獲得度（学部・総数）



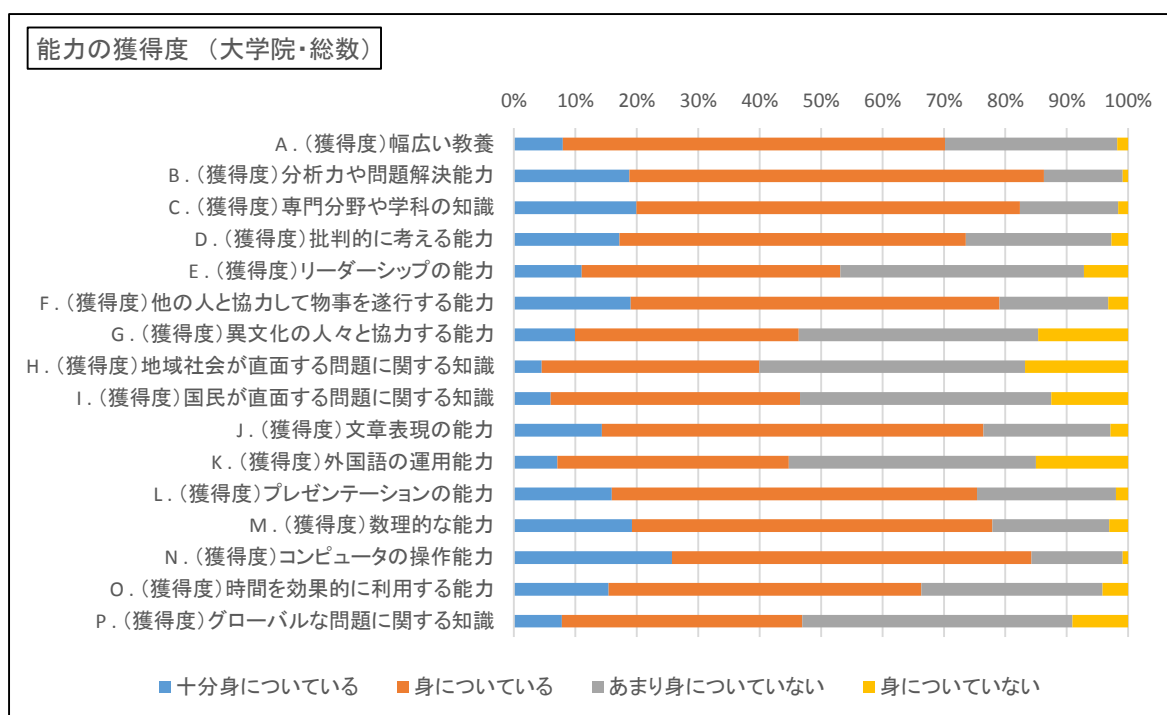
- ・学部在籍経験者の能力等の獲得状況について、身につけている(十分身につけている+身につけている)とする回答が多かったのは、「コンピュータの操作能力」85%、「分析力や問題解決能力」84%、「他の人と協力して物事を遂行する能力」80%、「数理的な能力」77%、「専門分野や学科の知識」77%、「文章表現の能力」76%、などである。
- ・一方で、身につけていない(あまり身につけていない+身につけていない)とする回答が多かったのが、「地域社会が直面する問題に関する知識」61%、「外国語の運用能力」61%、「グローバルな問題に関する知識」60%、「異文化の人々と協力する能力」58%、「国民が直面する問題に関する知識」55%、などであった。

◆現在の仕事や生活における能力の必要度、獲得度(大学院在籍経験者)

能力の必要度（大学院・総数）

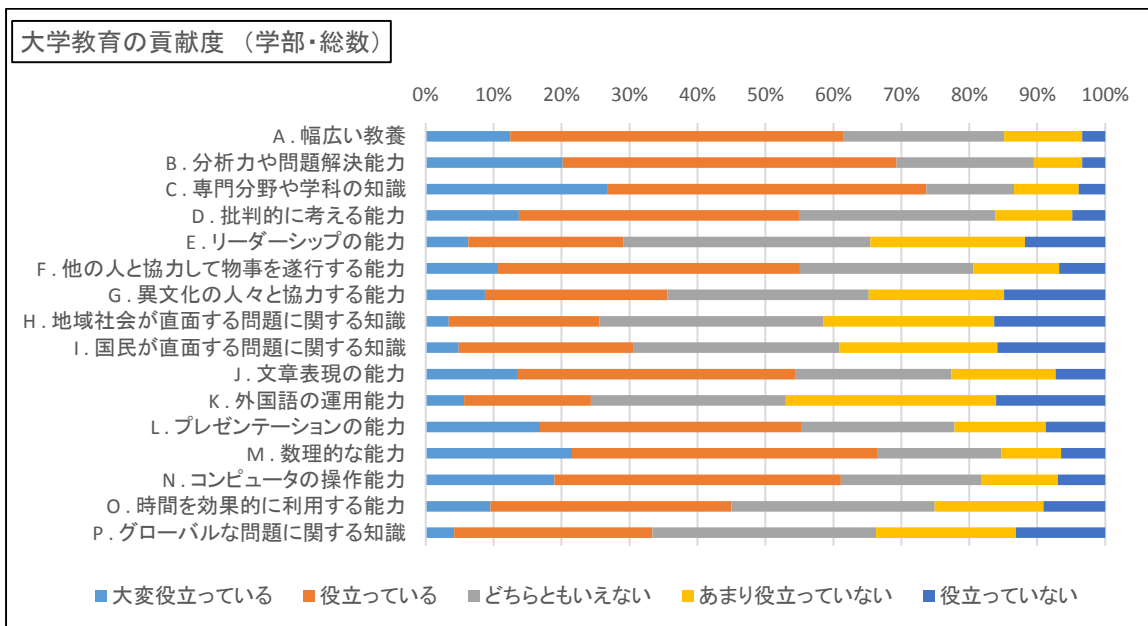


- ・大学院在籍経験者の現在の仕事や生活において、必要度が高い能力等とされたのは、「分析力や問題解決能力」98%、「時間を効果的に利用する能力」98%、「他の人と協力して物事を遂行する能力」97%、「文章表現の能力」95%、「コンピュータの操作能力」93%、「プレゼンテーションの能力」93%、「リーダーシップの能力」91%、などである。
- ・一方で、必要ではないとする回答が多かったのが、「地域社会が直面する問題に関する知識」43%、「国民が直面する問題に関する知識」39%、「異文化の人々と協力する能力」33%、「グローバルな問題に関する知識」32%、「外国語の運用能力」28%、などであった。

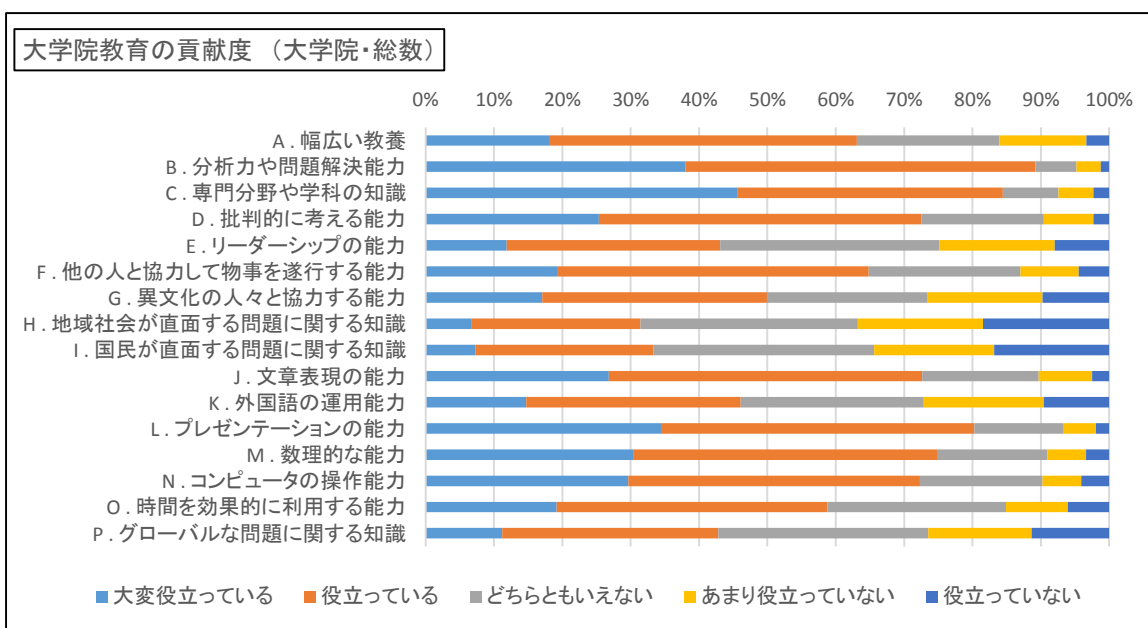


- ・大学院在籍経験者の能力等の獲得状況について、身につけているとする回答が多かったのは、「分析力や問題解決能力」86%、「コンピュータの操作能力」84%、「専門分野や学科の知識」82%、「他の人と協力して物事を遂行する能力」79%、「数理的な能力」78%、「文章表現の能力」76%、などである。
- ・一方で、身につけていないとする回答が多かったのが、「地域社会が直面する問題に関する知識」60%、「外国語の運用能力」55%、「異文化の人々と協力する能力」54%、「国民が直面する問題に関する知識」53%、「グローバルな問題に関する知識」53%、などであった。

◆東北大学の教育の貢献度



- ・学部在籍経験者の能力や知識に、東北大学の学部での教育がどの程度貢献しているか尋ねた。役立つ(大変役立つ+役立つ)との回答が多かったのが、「専門分野や学科の知識」72%、「分析力や問題解決能力」69%、「数理的な能力」66%、「幅広い教養」62%、「コンピュータの操作能力」61%などであった。
- ・一方で、役立っていない(あまり役立っていない+役立っていない)との回答が多かったのは、「外国語の運用能力」47%、「地域社会が直面する問題に関する知識」41%、「国民が直面する問題に関する知識」39%、「異文化の人々と協力する能力」35%、「リーダーシップの能力」35%、「グローバルな問題に関する知識」34%など。



- ・大学院在籍経験者の能力や知識に、東北大学の大学院での教育が役立っているとする回答が多かったのが、「分析力や問題解決能力」89%、「専門分野や学科の知識」84%、「プレゼンテーションの能力」80%、「数理的な能力」75%、「文章表現の能力」73%、「批判的に考える能力」73%、「コンピュータの操作能力」72%などであった。
- ・一方で、役立っていない(あまり役立っていない+役立っていない)との回答が多かったのは、「地域社会が直面する問題に関する知識」37%、「国民が直面する問題に関する知識」34%、「外国語の運用能力」27%、「異文化の人々と協力する能力」27%、「グローバルな問題に関する知識」26%、「リーダーシップの能力」25%など。

以上